

△翻  
刻▽

## 諸国名所和歌

『先代御便覧』研究会

代表 小 高 道 子

金 田 房 子

『先代御便覧』研究会は、国文学研究資料館の公募に応募して採用された平成九年度の共同研究に始まる。会員は小高道子（中京大学）を研究代表者、山田直子（国文学研究資料館）を館内連絡者として、他に柳瀬万里（鳴門教育大学）、坂内泰子（神奈川県立外国語短期大学）、金田房子（放送大学〈非〉）の計五名で、発足より現在に至るまで固定している。

宮内庁書陵部蔵の二十八冊よりなる叢書『先代御便覧』の重要性は古くより注目され、昭和三十六年には井上宗雄氏をはじめとする三名により目録も作成された。しかしながら、大部の書であり、成立などに不明な点もあるために、その後四十年近く放置されてきた。本研究会は、共同研究により『先代御便覧』の成立・構成などを明らかにし、近世前期宮廷壇に位置づけることを目的とする。

本研究会の共同研究は、国文学研究資料館の平成九年度公募共同研究に応募し、採択された『先代御便覧』（宮内

庁書陵部蔵）の研究」および同十一年度「近世和歌御会の基礎的研究」の成果を基盤にしている。さらに、これらの研究は、平成十二年度より、霊元天皇（院）の時代に焦点をあてて近世前期宮廷歌壇の実態を通観することを目的とする小高道子の科学研究費補助金（基盤研究C『近世前期歌壇の研究』）の一部に、研究協力の形で継承されている。これまでの共同研究によって、近世前期宮廷歌壇を収書・和歌御会の両面から概観することが出来、『先代御便覧』の全体像を把握するための基礎作業が終了した。そこで、こうした共同研究の成果をもとにして、『先代御便覧』所収のそれぞれの資料を整理して比較検討するとともに、『先代御便覧』の研究を通して近世前期宮廷歌人の文学活動の実態を実証的に把握し、近世前期宮廷歌壇の全体像を通観する一助とすることを目的として、共同研究を継続している。

今回の翻刻は、『毛利甲州被尋条々』（中京大学教養論叢第四十二巻 第二号）に続くものであり、主として金田房子が担当した。本稿をなすにあたって、井上宗雄先生のご教示を得た。記して深謝申し上げる。また、貴重な資料の翻刻を御許可下さった宮内庁書陵部に深謝申し上げます。

本翻刻は、資料収集などに際して、小高道子の科学研究費補助金（基盤研究C『近世前期歌壇の研究』）を利用している。すなわち、同補助金による成果の一部である。

『先代御便覧』巻八所収、「諸国名所和歌」は、昭高院道晃法親王（慶長一七（一六一二）～延宝七（一六七九）後陽成天皇第十三皇子）の選んだ名所和歌である。各国から、一ヶ所の名所、一首の和歌を選出する点で、そこから法親王の和歌に対する意識、視点の一端を窺い知ることができ、興味深い小品である。

和歌は、二十一代集の他、夫木和歌集、藻塩草（一首のみ）に拠っているが、【参考】に記したように、国歌大観本の二十一代集とは、多くの異同がある。また、手控え的なものがあったことが予想されるが、和歌の選出に、先行の、あるいは同じ頃に刊行された名所和歌集が参照された可能性は低いと考えられる。後陽成天皇の撰になる『方輿勝覧集』との関連も全くないようである。【参考】として、主に『類字名所和歌集』（元和三年（一六一七）刊）『松葉名所和歌集』（万治三年（一六六〇）刊）との異同を記した。『歌枕名寄』は、諸本の異同が大きいので、個々には記さなかった。）

諸国の配列順は、山城に始まり対馬に至るまで、『類字名所和歌集』『松葉名所和歌集』と、全く同じである。『先代御便覧』の同巻には、「名所百首」「西国順礼観音三十三所之歌」「八景和歌」なども収録されており、堂上における歌枕、名所歌への関心の高まりが窺われる資料である。

## 凡例

- 一 底本には、宮内庁書陵部蔵『先代御便覧』巻八を用いた。
- 二 漢字・仮名・清濁は底本のままとする。
- 三 便宜上、通し番号を付し、新編国歌大観番号を「」内に記した。

## 諸国名所和歌 照高院道晃親王撰

宇治

山城

続古今

1 咲匂ふ小嶋かさきのやまふきや八十氏人のかさしなるらん〔163〕

吉野

大和

新勅撰

2 むかしたれかゝる桜のたね<sup>はなイ</sup>をうへて吉野を春の山となしけん〔58〕

交野

河内

新古今

3 またやみんかた野のみのゝ桜かり花の雪ちる春の明ほの〔114〕

信太杜

和泉

新古今

4 うつろはてしはし信太の杜をみよかへりもそする葛のうら風〔1820〕

難波

撰津

5 なにはかた入江をめくるあし鴨の玉もの舟床イに浮ねすらしも〔千載 433〕

たれその森

伊賀

夫木

6 さよ更てたれその森のほとゝきすなのりかけてもすきぬ成哉〔10028〕

いせ嶋

伊勢

玉葉

7 月清みさよ更行はいせしまや一しのうらに千鳥なくなり〔921〕

伊良虞崎

志摩

千載

8 玉もかるいらこか崎の岩ね松いく代までにか年のへぬらん〔1044〕

鳴海

尾張

詞花

9 古里にかはらさりけり鈴虫のなるみの野への夕暮の声〔121〕

古今

八橋

三河

10 唐衣きつゝなれにし妻しあればはる／＼きぬる旅をしそ思ふ〔410〕

佐夜中山

遠江

新後撰

11 旅ころも夕霜さむきさゝの葉のさやの中山あらし吹也〔580〕

富士

駿河

続後撰

12 朝日さす高根のみゆき空晴てたちもおよはぬ不二の川霧〔316〕

伊豆御山

伊豆

続後撰

13 千早振伊豆の御山の玉つはき八百萬代も色はかはらし〔1359〕

指出磯

甲斐

新千載

14 さよ千とり空にこそなけ塩の山さし出の磯も波やこゆらん〔669〕

風雅

足柄

相模

15 あしからの山の嵐のあとゝめて花の雪ふむたけの下道〔227〕

武蔵野

武蔵

新古今

16 行すゑは空もひとつのむさしのに草の原より出る月かけ〔422〕

野嶋崎

安房

続古今

17 浪かくる野嶋か崎に袖ぬれてを花かたしきねぬるよは哉〔867〕

黒戸濱

上総

玉葉

18 まとろましこよひならてはいつかみん黒戸の濱の秋の夜の月〔1156〕

古今

角田川

下総

19 なにしおはゝいさことゝはんだ鳥わか思ふ人はありやなしやと〔4 1 1〕

後撰

桜川

日立

20 つねよりも春辺になれば桜河浪花イ波イの花こそまなくよすらめ〔1 0 7〕

勢多

近江

新古今

21 まきの板も蓍生はかり成にけりいく世へぬらんせたの長橋〔1 6 5 6〕

不破

美濃

新後撰

22 秋かせに不はの関屋のあれまくも惜からぬまでつきそもりくる〔3 4 8〕

位山

飛弾

続千載



23 千代ふへき君かみゆきに位山また分のほるみねの椎柴〔2125〕

姨捨山

信濃

新後撰

24 ほとゝきすなれも心やなくさまぬ姨捨山の月になく夜半〔191〕

佐野

上野

詞花

25 夕霧にさのゝふなはし音す也たなれの駒のかへりくるかも〔328〕

室八嶋

下野

新後撰

26 たちのほる烟も雲に成にけりむろの八しまの五月(雨)の比〔217〕

松嶋

陸奥

新古今

27 たちかへり又もきてみん松嶋やをしまのとまや浪にあらすな〔933〕

古今

最上川

出羽

28 最上川のほれはくたるいな船のいなにはあらず此月はかり〔1092〕

続古今

青葉山

若狭

29 たつねはやあをはの山の遅桜はなのゝこるか春のとまるか〔186〕

新古今

有乳山

越前

30 矢田野ゝにあさち色つく有乳山嶺の淡雪寒くそあるらし〔657〕

古今

白山

加賀

31 きえはつる時しなけれは越路なるしら山の色は雪にそ有ける〔414〕

夫木

能登の海

能登

32 能登の海に釣する海士のいさり火の光にきませ月待かてに〔10347〕

風雅  
卯花山  
越中

33 朝またき卯花山をみわたせは空はくもらてつもる白雪〔309〕

越路浦  
越後

玉葉

34 物おもふ越路の浦の白浪もたちかへるならひ有とこそきけ〔1240〕

雪高濱  
佐渡

夫木

35 ふりつもる雪の高浜はるくと木陰もみえぬこしの浦風〔11763〕

神南山  
丹波

千載

36 ときはなる神南山の榊葉をさしてそいのる万代のため〔1281〕

金葉

海士橋立

丹後

37 恋渡る人にみせはや松の葉も下紅葉するあまのはし立〔二 4 2 2 三 4 2 4〕

千載

入佐山

但馬

38 夕月夜入佐の山の木かくれにほのかになのるほとゝきす哉〔1 6 3〕

古今

いなは山

因幡

39 たちわかれいなはの山の嶺におふるまつとし聞は今かへりこん〔3 6 5〕

新葉

船上やま

伯耆

40 わすれめやよるへも浪のあら磯を御ふねの上にとめしこゝろは〔5 7 2〕

後拾遺

袖師浦

出雲

41 唐衣袖師の浦のうつせかひむなしき恋に年をへぬらん〔660〕

比礼振嶺

石見

新後拾遺

42 いは見かた高津の山に雲はれてひれふるみねにいつる月影〔351〕

鼓嵩

隠岐

拾遺

43 かゝり火の所さためす見えつるはなかれつゝみのたけは成けり〔388〕

須磨

播磨

新古今

44 須磨の浦のなきたる朝はめもはるに霞にまかふあまの釣舟〔1598〕

久米佐良山

美作

古今

45 みまさかや久米のさら山さら／＼にわか名はたてし万代までに〔1083〕

虫明迫門

備前

新勅撰

46 波高きむし明のせとに行舟のよるへしらせよおきつ塩風〔1324〕

吉備中山

備中

夫木

47 苗代に細谷川をせきかけてきひの山田はおひをひくなり〔1884〕

鞆浦

備後

新勅撰

48 ともの浦の磯のむろの木みる毎にあひみしいもは忘れんやは〔1323〕

厳嶋

安藝

藻塩草

49 あたならむ人にはみせし厳嶋なみのぬれ衣きせぬものかは〔厳島の項〕

いはくに山

周防

夫木

50 いはくにのあし山<sup>ライ</sup>みちは猶とをしくれもそかゝるあゆめくろ駒〔8121〕

豊浦

長門

新勅撰

51 堤をは豊浦の宮につきそめて世々をへぬれと水はもらさす〔491〕

若浦

紀伊

古今

52 和歌の浦に塩みちくれはかたを浪あしへをさして田鶴鳴渡る〔仮名序〕

絵嶋

淡路

千載

53 さよ千鳥ふけるの浦におとつれてゑしまか磯に月かたふきぬ〔990〕

鳴門

阿波

新拾遺

54 心してとまひきおほへうき雲も雨になるとの沖津舟人〔837〕

後拾遺

松山

讃岐

55 松山のまつか浦風ふきよせてひろいてしのへ恋旅イわすれ貝〔4 8 6〕

玉葉

宇和郡

伊勢（ママ）

56 いよの国うはの郡の魚までも我こそはなれ世をすくふとて〔2 7 3 1〕

新勅撰

室戸

土佐

57 法性の室戸といへとわか住はうるの浪風よせぬ日そなき〔5 7 4〕

後拾遺

生松原

筑前

58 いのりつゝ千代をかけたる藤波にいきの松こそ思ひやられるれ〔4 6 9〕

夫木

一夜川

筑後



59 名にたかき秋の半の一夜川ことはりしなくすめる月かな〔5168〕  
ろイ けイ

玉嶋

肥前

続千載

60 梅か香やまつうつるらん陰きよき玉嶋川の水のか花イ（ゝみ）に〔51〕

野坂浦

肥後

新続古今

61 あしきたの野坂の浦に鳴千鳥みしまにかよふ聲そふけぬる〔672〕

企救濱

豊前

続拾遺

62 音にのみきくのはま松下葉さへうつろふ比の人はたのまし〔1010〕

風早のみほの浦

豊後

夫木

63 なみかゝるみほの浦への白つゝしいつれをはなとみてか手折らん〔2203〕

続千載

速日峯

日向

64 かたふかぬ速日の峯にあまくたる天のみまこの国そわかくに〔907〕

気色森

大隅

新古今

65 秋ちかきけしきの森になくせみのなみたの露や下葉染らん〔270〕

隼人さつまのせと 薩摩

夫木

66 はや人のせとのいわほもイにあゆはしる吉野ゝ瀧になをしかすけり〔13178〕

海松目浦

壹岐

新続古今

67 かりにたに藻塩煙なひかすはみるめの浦もかひやなからん〔1109〕

上方山

対馬

68 たかしまきのや上方山うへかたのもみち葉をふきもちらしておきつ塩風〔夫木8490〕

## 【参考】

- 1 松葉ナシ
- 2 「たね(はなイ)をうへて」↓国歌「はな」 類字「たね」 松葉ナシ
- 3 松葉ナシ
- 5 「玉もの舟(床イ)」↓国歌「ふね」 類字「舟」 松葉ナシ
- 7 松葉「一志浦」の項に。(「伊勢嶋」は別項)
- 8 松葉ナシ
- 「志摩」↓正しくは、「三河」。しかし、『歌枕名寄』類字、松葉ともに「志摩」に分類。
- 9・12 松葉ナシ
- 14 「磯も波やこゆらん」↓国歌「磯に波やこすらん」 類字「磯も波やこすらん」 松葉「磯も波やこゆらん」
- 15 松葉、巻五「竹下(相模)」の項に。
- 16・17 松葉ナシ
- 19 松葉ナシ
- 「下総」↓『歌枕名寄』『名所方角抄』は、「武蔵」とする。類字・松葉は「下総」。『方輿勝覧集』は、「下総或武蔵」
- 20 「浪(花イ)の花(波イ)」↓国歌「花の浪」 類字「花(波イ)の波(花イ)」 松葉「花(波イ)の浪(花イ)」
- 21 「莓生」↓国歌「苔むす」 『名所方角抄』「苔生ふ」 類字「莓生」 松葉ナシ
- 22・23 松葉ナシ
- 24 松葉ナシ

25  
29 松葉ナシ

30 「矢田野ゝに」↓『名所方角抄』「矢田の野に」 松葉「やたの野の」

「寒くそあるらし」↓国歌「寒くあるらし」 『名所方角抄』「寒くそあるらし」

類字「寒くそあるらし」 松葉「寒くそ降らし」

31 「色は」↓国歌「名は」 『名所方角抄』「名は」 類字「名は」 松葉ナシ

32 「光にきませ（いゆくイ）月待かてに（らい）」↓国歌「光にいゆく月待かてら」

松葉「光にいませ月待かてら」 『名所方角抄』「光にゐませ月待かてに」

33 松葉ナシ

34 「物おもふ」↓国歌「物おもひ」 類字「物おもひ」 松葉「物おもひ」

35 「ふりつもる」↓国歌「ふりくらす」 『名所方角抄』「降積」 松葉「降つく」

37 「葉も」↓国歌「二度本「葉の」・三奏本「葉も」」 『名所方角抄』「葉も」 類字「葉も」 松葉ナシ

38 「なのる」↓国歌「もなく」 類字「なのる」 松葉ナシ

39 松葉ナシ

40 「こゝろは」↓国歌「心を」 松葉「心は」

「船上やま」↓松葉「御船上」

41 「年を」↓国歌「年の」 類字「年の」 松葉ナシ

出雲とするのは、『八雲御抄』卷五による。 類字「出雲」 『歌枕名寄』「伊勢」

42 「みねに」↓国歌「峰を」 類字「岑を」 松葉「嶺を」

- 「比礼振山」↓類字「高角山」 『名所方角抄』「高角山」 松葉「高角山」「比礼振山」に重出。
- 44 松葉ナシ
- 「播磨」↓正しくは、「摂津」。『名所方角抄』『歌枕名寄』『方輿勝覧集』類字・松葉ともに、須磨は「摂津」とする。
- 46・48 類字・松葉ナシ
- 47 「ひくなる」↓国歌「ひくなり」 松葉「引也」
- 「吉備中山」↓松葉「細谷川」「吉備中山」に重出。
- 50 「あし(らい)山」↓国歌「あら山」 松葉「あら山」
- 52・53・54 松葉ナシ
- 55 「まつか」↓国歌「まつの」 類字「松の」 松葉「まつの」
- 「ふきよせて」↓国歌「ふきよせは」 類字「吹よせは」 松葉「吹よせは」
- 「恋(旅イ)」↓国歌「恋」 類字「こひ」 松葉「恋」
- 58 松葉ナシ
- 59 「しな(ろイ)く」↓国歌「しるく」 松葉「しるく」
- 「月かな(けイ)」↓国歌「月かけ」 松葉「月哉」
- 60 「水(花イ)の」↓国歌「花の」 『名所方角抄』『水の』 類字「水の」 松葉ナシ
- 62 松葉ナシ
- 63 「なみかゝる」↓国歌「なみかくる」 松葉「なみかゝる」
- 紀伊国あるいは摂津国の歌枕「美穂の浦」を詠んだ歌か。(松葉「摂津」)

65 松葉ナシ

66 「いわほに（もイ）」↓国歌「いわはほも」 松葉「岩ほに」

67 松葉ナシ

68 「たかしき（まい）の（やイ）」↓国歌「たかしきの」 松葉「たかしきや」

（注） 村田秋男編『類字名所和歌集 本文編』（笠間叢書158）

神作光一・村田秋男『松葉名所和歌集 本文及び索引』（笠間索引叢書57）

渋谷虎雄『校本調枕名寄』（桜楓社）

『名所方角抄』寛永六年（一六六六）刊本

『方輿勝覧集』（列聖全集御撰集四）

に拠った。

（受理日 平成14年4月10日）